



海外駐在員インタビュー Working Abroad

株式会社福井機工

ベトナム駐在事務所

所長 重根 椋 さん

県内企業の海外事務所で働く駐在員の仕事内容やライフスタイルを紹介する連載企画。第3回は機械専門商社「福井機工」のベトナム駐在事務所に勤務する重根椋さんにお話を伺いました。

Q. ベトナムに進出した経緯について教えてください。

生産工場が海外にシフトしていく中で、将来的な顧客減少は避けられないとの危機感から2013年にアリババの越境ECサイトを利用して輸出事業を始めました。若手社員の頑張りもあり徐々に売上が拡大し、特にベトナムの顧客が半数を占めるようになつたため、2018年にホーチミンに駐在事務所を設立しました。私は二代目の所長として今年1月より駐在しています。

Q. 普段はどのような仕事をしていますか？

弊社は創業59年の機械専門商社で、空圧機器や油圧機器、電動機、工具など様々な品目を取り扱っています。駐在員の仕事としては販路開拓を通じて福井本社とのマッチング

を図ることはもちろん、トラブルが発生した際のフォローも重要な業務です。お叱りを受けることは少なくありませんが、それも含めて我々の仕事だと思えますし、現地顧客との関係をスムーズにするための潤滑油のような役割を積極的に担うべきであると考え日々活動しています。

Q. 普段の生活について教えてください。

私はベトナムのサンドイッチ「バインミー」が大好きで、事務所近くの専門店にも毎日通うほどです。食べ歩きやタクシー運転手との雑談のためにベトナム語を勉強しています。やはり英語が主になりますのであまり上達していません。ベトナム人の英会話力は日本人と比較しても高く感じます。

また、現地の人は私たちが思っているほど日本文化に興味は無く、寿司は好んで食べませんし、世界的なブームとなった「鬼滅の刃」でさえあまり知られていません。

Q. コロナ禍における現地の様子はいかがですか？

今年7月より感染が急拡大し現在

はロックダウンが続いています。普段は賑わいのある公共施設や繁華街もまるでゴーストタウンのように人がいなくなりました。市民は不確実な情報に翻弄され、スーパーに買い占めに走り、未だに欲しい食料が手に入らない状況が続いています。また、交通手段が絶たれてしまったため現在テレワークをしています。

Q. ベトナム事務所の今後の展開について教えてください。

目標はまず、ホーチミン近辺の日系企業への営業活動を推進し、販路拡大に努めたいと考えています。将来的にはハノイやマレーシアへの進出を視野に入れています。今後の後継者へ胸を張ってバトンを渡せるよう邁進していきたいと思っています。



重根所長手作りのバインミー